

令和3年度 福井県立大野高等学校全日制 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習支援	<p>a 家庭学習の現状をより正確に把握し、計画的・自主的な学習を促していく。 目標：生徒の家庭学習充実度の目標指数 肯定的評価60%以上</p> <p>b 公開授業や研修会等の授業研究体制を確立し、タブレット等のICT機器を活用した指導法を研究・実践していく。 目標：教員のICT機器を活用した授業実践の目標指数 肯定的評価80%以上</p>	<p>a 保護者アンケート「子どもの家庭学習の習慣の肯定的評価72%」「学力向上取り組み肯定的評価91%」 生徒アンケート「学習時間3時間以上27%、2～3時間21%」 学習時間への反映が十分であるとはいえないが、取り組みへの肯定的評価等から、生徒の学習に対する意欲喚起、家庭学習定着の取り組みについては、目標は概ね達成できていると考える</p> <p>b 生徒アンケート「授業満足度の肯定的評価95%」 「授業満足度の肯定的評価95%」アンケートには表れていないが、今年度、多くの教員がタブレット等のICT機器を活用した指導方法を取り入れた。そのことも、授業満足度が高い数値を維持できていたことに寄与したと考えられる。教員アンケートの公開授業の実施（参加）では、最上位評価は9%と大きくダウンした。教員がICT機器を活用した授業ができるようになり、ICT機器を使うだけの授業には関心が薄れつつあるためではないかと考えられる。</p>	<p>a これまでの取り組みを継続する。学習課題の質の向上、課題点検の工夫、授業での学習内容の扱い方など、各教科の特性を踏まえながら、量・質ともに適切な学習課題と学習方法の研究を行う。また、家庭との情報交換に努め、学校と家庭がより連携して生徒の学力向上を目指す。</p> <p>b 引き続き校内での公開授業や研究協議会を定期的に実施する。公開授業に関しては、単にICT機器を使っただけの授業ではなく、その授業を通して生徒が主体的に深い学びを実現できるのかを主眼に置き、授業者を募る。また、校外からの評価を得るために、保護者に授業を公開する日を設ける。</p>
2 生徒支援	<p>a 毎朝の登校指導や毎月の容儀指導、交通安全指導の徹底により、生徒の規範意識の向上に努める。 目標：生徒の規範意識達成の目標指数 肯定的評価95%以上</p> <p>b 学校祭・委員会活動・部活動を充実させ、生徒の主体的活動を推進する。 目標：生徒の生徒会行事や部・サークル活動の目標指数 肯定的評価90%以上</p>	<p>a 正しい身なりで学校生活を送るよう努めたと回答した生徒・保護者は、98%であり、高い意識が見られた。教職員の容儀指導については、積極的に取り組んだ教職員は、88%で前年より9%上昇した。容儀指導については、前年より教職員の共通理解を図ることができた。</p> <p>b 充実した部活動ができたと回答した生徒は、7年連続で93%を越え、本校の部活動に満足していると回答した保護者も6年連続で89%以上となった。部活動指導を行ったと回答した教職員は75%であり、2年連続で75%以上の高い水準を維持している。コロナ禍の状況の中で教職員が部活動等を通して、積極的に生徒を指導していくという意欲が見られた。</p>	<p>a 継続して実施している登下校の交通指導や挨拶指導を効果的かつ充実した活動にする。また、全教職員との共通理解を図るため、校内メールや集会などの機会にわかりやすく丁寧に説明をする。また、生徒会を中心にして継続して校則の検討に取り組む。</p> <p>b 生徒が無理なく充実した学校生活を送ることができるように、学校行事の適正化・効率化に努める。学校行事や部活動を通じて、学校生活に主体的に取り組むことができる生徒の育成に努め、リーダーの育成を図る。生徒が充実した活動ができるように、必要な備品をそろえたり、環境を整えたりして支援する。</p>
3 進路支援	<p>a 進路に係わる全体指導および個人指導の検証と実践を通して、進路目標の早期設定と具体化に努める。 目標：進路意識高揚（生徒）の目標指数 肯定的評価90%以上</p> <p>b 各種研修会・ガイダンス等への参加を促し、進路意識の高揚と指導力の向上に努める。 目標：進路意識高揚（教員）の目標指数 肯定的評価90%以上</p>	<p>a 進路目標の早期設定と具体化に関し、「進路意識が向上した」と回答した生徒が90%（昨年比-1%）と前年度とほぼ同じであった。また本校の進路指導に関する保護者の満足度も88%（昨年比-2%）とほぼ同じであった。目標指数90%を若干下回ったが、例年同様の満足度を得られている。次年度も高い満足度を得られるように内容の検討を行っていきたい。</p> <p>b 「生徒の進路意識が向上した」と回答した教員が100%（昨年比+3%）と前年度より増加した。また、教員の研修会等への参加率は78%（昨年比+6%）で、目標指数には届かなかったが、前年度より増加した。コロナ禍により、生徒の大学訪問が中止になったことや、教員の研修会が開催されなかったことがあったが、オンラインの活用により増加したと考えられる。次年度もオンラインの活用を含め、指導力の向上に努めたい。</p>	<p>a 生徒の進路目標の早期設定と具体化を行うために、低学年での大学訪問や進路講演会、ガイダンス、保護者対象の進路研修会等、適切な進路情報の提供を行いたい。特に見学や体験が進路意識向上に深く関係しているため、オンラインの活用を含めて内容および方法の検討を行い、充実を図る。</p> <p>b 今年度実施された大学入学共通テストの全国平均点は大幅に減少した。次年度に向けて、問題の分析や情報収集、今後の対応策や指導方法の再検討を行い、生徒の進路実現を図る。</p>

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
<p style="text-align: center;">4</p> <p>保健管理</p>	<p>a 各種講演会や保健だよりの発行、校内掲示板や大高メールの活用などで啓発活動を充実し、家庭とも連携して生徒の健康・安全に対する意識を向上させる。 目標：生徒の健康管理意識の目標指数 肯定的評価90%以上</p> <p>b 面談やいじめのアンケートなどを通して、学年会や関係部署と密に連携した教育相談活動を行い、いじめや問題の未然防止と早期発見・早期解決を図る。 目標：生徒の教育相談活動の目標指数 肯定的評価90%以上</p>	<p>a 自分の健康に心がけている生徒は全体の94%で前年度と同じで高い数値である。過年度比較をみると、学年が上がるに従ってその数値も少し上がる傾向があり、健康に対する意識が年々向上している。</p> <p>b 相談したいことがあったら、誰かに悩みを相談できそうだと答えた生徒は94%で、前年度より割合が少し増加し、その中でも十分にできそうである生徒の割合が40%だった。学年が上がるに従ってその数値も少し上がる傾向がある。教職員の教育相談に対する意識も97%と高い水準であり、全教職員で生徒の教育相談活動に取り組んでいる姿勢が現れている。</p>	<p>a 生徒・保護者対象の保健だより・各種講演会の内容の充実、保健・環境整備委員会活動の活発化を図り、生徒の健康管理・安全に対する意識の向上を図る。また、大高メールを活用して保護者への注意喚起に努める。以上の事柄を今後も継続して取り組む。</p> <p>b 生徒が、気軽に教育相談が出来る環境を整備するとともに、初期指導を含め、学校全体での適切な対応を心がける。また、校内相談がなかなか出来ない生徒に対しては、個々の事例を鑑みながら適切な外部相談機関を紹介していく。以上の事柄を今後も継続して取り組む。</p>
<p style="text-align: center;">5</p> <p>図書支援 保護者との連携</p>	<p>a 朝読書や古本市、図書館だより、図書掲示板などを活用し、読書習慣を定着させる。 目標：年間2冊以上の読書をした生徒70%以上</p> <p>b 学校の情報発信を積極的に行う。 目標：大高メールの積極的活用とホームページの週1回以上の更新を目指す。</p>	<p>a 年間2冊以上読書した生徒は62%で、昨年より1%増加しているが、朝読書が読書習慣のきっかけになったという生徒は6%減少している。図書館だよりの配布や図書掲示板の活用および図書館イベントにより、読書の冊数は維持できているが、目標70%を超えるためには朝読書週間の見直しによる読書習慣の定着が課題である。</p> <p>b PTA活動の内容およびその情報提供について保護者の評価は95%で、前年度より1%減少してはいるが、コロナ禍の影響が少なかった一昨年度と比べて評価は高い。大高メールやSNSの積極的配信とホームページの週1回以上の更新の成果といえる。</p>	<p>a 今年度もコロナ禍のため多数の生徒が集まる古本市等のイベントは実施できなかった。図書館に足を運ぶ生徒数を増やすために、3密を避ける工夫をした図書館イベントの実施を今後も検討していく。また、朝読書週間が読書習慣を定着させる取り組みになるように、学年会や教科会と検討していく。</p> <p>b 情報発信を積極的に行っていくが、大高メールやSNSについては発信方法や内容を検討していく。</p>